

スズメバチの生態

オオスズメバチ キイロスズメバチ コガタスズメバチ クロスズメバチ



主なスズメバチの特徴

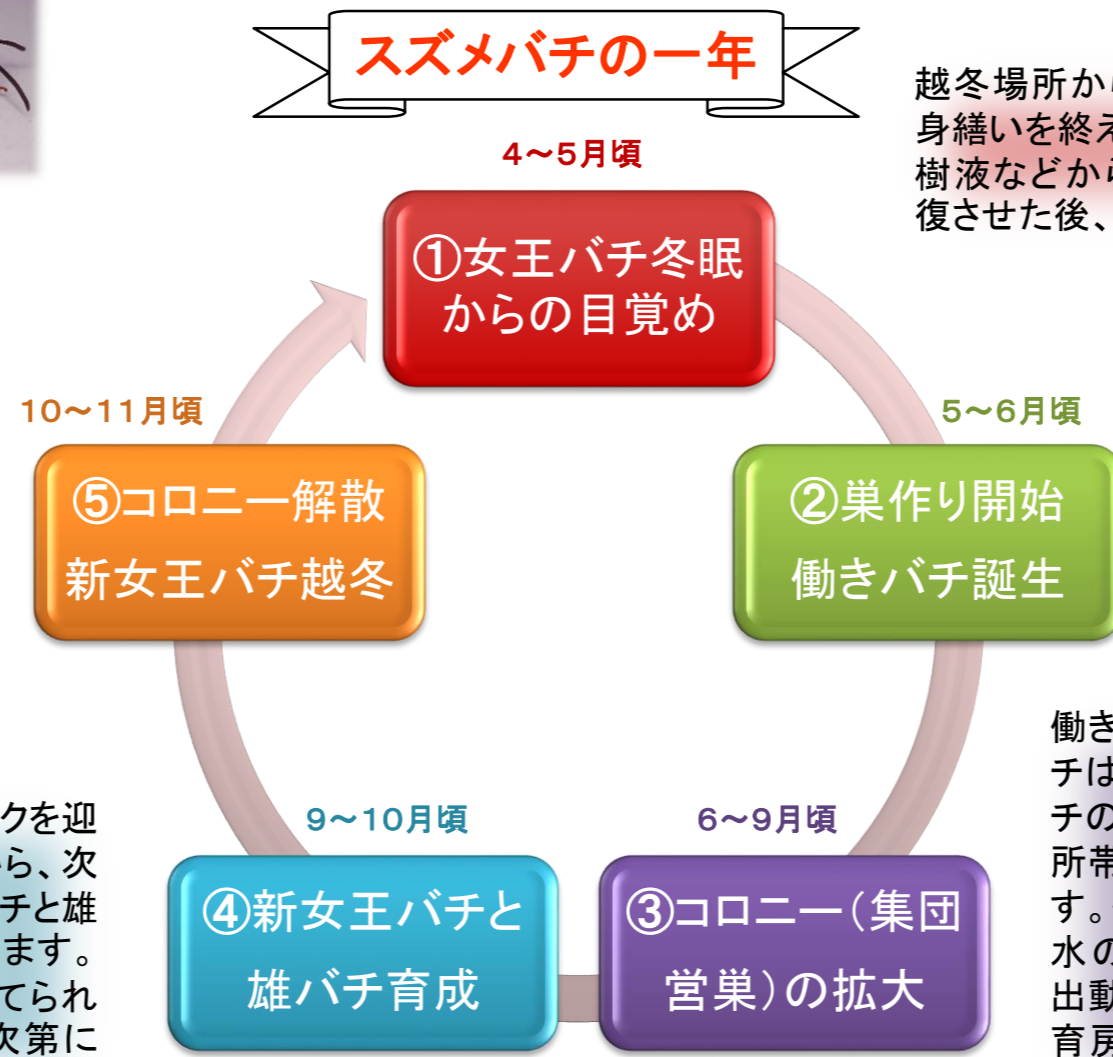
項目	オオスズメバチ	キイロスズメバチ	コガタスズメバチ	クロスズメバチ
働きバチの大きさ	27～40mm	17～24mm	21～27mm	10～12mm
働きバチの数	200～500頭	400～1400頭	50～100頭	800～1500頭
巣の大きさ(直径)	30～80cm	30～90cm	20～30cm	20～40cm
営巣場所	土中が多い	林、軒下、壁など	林、庭木、生垣など	土中が多い
攻撃性	極めて強い	極めて強い	やや弱い	やや弱い
その他	スズメバチ類の中では体の大きさは世界最大	初期の巣が手狭になると移住する習性有り	初期の巣はトックリを逆さにした形をしている	食用されている「はちのこ」はこの幼虫が多い

キイロスズメバチの巣



からきだの道寺ノ入り湧水池の畔のツバキの枝に作られていた巣(直径約30cm) 2015年12月採集

スズメバチの一年



越冬場所から這い出した女王バチは身繕いを終えてから大空へ飛び立ち、樹液などから栄養を摂取し体力を回復させた後、営巣場所を探し始めます。

営巣場所が決まると巣材採集に出かけ、朽ち木などを唾液をまぜながら噛みほぐして丸めて持ち帰り、木の枝や壁などに塗り付けるようにして巣づくりを始めます。そして、育房がいくつかできると産卵を始め、働きバチが誕生してくるまでの間、女王バチ1頭だけで巣づくり、産卵、幼虫の世話などを行います。

働きバチ誕生後、女王バチは産卵に専念。働きバチの数は急速に増え、大所帯が形成されていきます。働きバチは巣材・餌・水の採集などで巣外に出動する他、巣の外被や育房づくり、幼虫の世話などを分担して行います。

雄バチと新女王バチが相次いで羽化し、順次巣から飛び立ち再び巣には戻りません。巣外で雄バチと交尾を終えた新女王バチは越冬に入ります。新女王バチ以外は全て死に絶え、コロニーは解散、巣は空となります。

働きバチの数がピークを迎えた夏の終わり頃から、次世代を担う新女王バチと雄バチの育成が始まります。働きバチは新しく育てられることはなく、数は次第に減少していきます。

Q1 スズメバチはどんな種類があるの？
A スズメバチはスズメバチ科スズメバチ亜科に属する昆虫の総称です。日本には16種類生息しています。多摩地区で見られる主な4種類の特徴は上表に示す通りです。

Q2 スズメバチの名前の由来は？
A 「スズメ並みに体が大きい」と「巣の外被の模様がスズメに似ている」という説があります。特に、オオスズメバチの女王バチは40～45mmと世界最大。スズメの模様に最も似ているのはキイロスズメバチの巣の外被です。

Q3 スズメバチとミツバチの違いは？
A 幼虫の餌として蜜や花粉を集めて貯える習性を持っている「花バチ」の代表のミツバチに対しスズメバチは肉食系、主に昆虫を襲う「狩りバチ」の仲間です。ミツバチにとっては天敵でもあります。

Q4 スズメバチの巣は何でできているの？
A 枯れ木や木の皮が主な巣材です。かじり取った木の繊維を唾液と混ぜて丸めて持ち帰り、薄く広げて使います。働きバチそれぞれが持ち帰った巣材が層をなし縞模様を形成するのです。

Q5 スズメバチの巣の中には蜜があるの？
A 蜜を集め貯めたりしません。幼虫のための餌を確保するために主に昆虫を襲い、肉団子にしてから巣に持ち帰り幼虫に与えます。成虫は幼虫が口から出す分泌液を主な食糧としています。

Q6 新女王バチだけが越冬するの？
A 冬眠から覚め春から活動してきた女王バチは約1年の寿命を終え、新女王バチ以外は冬の初めまでに死に絶えてしまいます。半年もかけて作った巣は空となり再利用されず崩壊してしまいます。

Q8 スズメバチの危険リスクを減らすためには？
A 攻撃してくるのは巣の防衛のため。危険を避ける上で大切なことは巣に近寄らないことです。もしも遭遇したら、急に動かず身をかがめ静かに後退して下さい。手で払ったり大声を出すことはNG。白い帽子やタオルを頭にかぶると安全性は高まります。万一、刺されたら応急処置(毒を絞り出し水で洗って冷やす)した後、速やかに病院で診てもらって下さい。

Q7 スズメバチは危険？
A 集団に刺されたり、蜂毒にアレルギーのある人が刺されると死に至ることがあります。特に夏から秋にかけてコロニーも大きくなり、働きバチ自体も活発で攻撃性を増すため大変危険です。